

日本地球電気磁気学会会報 (第55号)

1972年11月24日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2丁目11の16

郵便番号 113

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111 内線 6476

振替 東京 4860番

第52回総会報告

於 盛岡市岩手県自治会館大会議室

昭和47年10月25日 16時20分～17時20分

総会の成立：出席者76名，委任状47名，計123名。 国内会員数の
3/4である121名以上で総会は成立した。

千葉会員の開会の辞に続いて，斎藤運営委員が福島委員長より総会議長に
指名された。

1. 高橋八郎大会委員長（岩手大）の歓迎の挨拶が行なわれた。

1. 報告

庶務（等松運営委員）

i) 新入会員（5名別記）

ii) 学会役員改選の件（別記）

iii) 田中館メダル寄金募金の中間報告（現在も募金を受付中であり，会
員各位の御協力をお願いしたい）

iv) 大学院学生の就職問題を特別事項として代表者が説明する件につい

ての経過報告が行なわれた。

会誌（行武運営委員）

会誌発行及び論文投稿の現状が報告された。

24巻 第1号（配布済）， 第2号（配布中）
第3号（12月中旬）， 第4号（3月の予定）

投稿論文数は41編あり現在15編は査読中である。

1. 福島委員長の挨拶（別記）があり，続いて永田会員より最近の国際会議について説明が行なわれた。

1. 次期開催地

松浦運営委員より第53回総会・講演会の開催引き受け機関として電気通信大学にお願いしたいとの発言があり，芳野会員（電通大）から会場の都合を考慮して開催時期は後程決めさせて頂くことでお引き受けするという事で，電通大に決定した。（日程についてはお知らせの項参照）

1. 会員報告事項

地球電磁気若手の会を代表して佐藤夏雄会員が地球電磁気関係大学院のオーバー・ドクター問題についての現状を説明し，あわせて就職問題について学会会員各位の理解と支持を頂きたいとの発言を行なった。

最後に大林評議員から岩手大学の関係者に謝辞が述べられ全員拍手の中に総会を終了した。

福島委員長挨拶（要旨）

今回本学会創立以来はじめて仙台よりも北の地，田中館先生の故郷岩手県で

学会が開催されましたことは、学会設立後25年の基礎をふまえて今後さらに学会が大きな発展を遂げることを物語るものであらうと思います。先回の総会で承認されました田中館メダル作成計画は、会員各位の御協力を得ることができましたので、今期中にメダル作成に至らせたいと思っております。本学会には、地球電磁気学の研究を実際に手がけている方々、直接・間接に研究者を援助する立場の方々、あるいは進展する地球電磁気学の知識を自己の職業に生かされる方々など、いろいろな立場の方々が地球電磁気学の発展を願い、かつ喜びをわかちあひ集いとして、今後とも総会・講演会・懇親会をつづけていきたいと思っております。

第52回総会ならびに講演会後記

昭和48年度秋期学会は東北の京都といわれる盛岡市で10月23日から26日の4日間にわたって開催されました。会員の中には会場近くの盛岡城址の静かなたたずまいでの散策を楽しまれた方々もあったことと存じます。

今回の特別講演は角田忠一（緯度観測所）、長島一男（名大理）の両会員が夫々下記の演題で Review をなされました。

「地球の回転運動と流体核運動」

「Helio magnetosphere と Cosmic Ray Modulation」

角田会員は地球緯度変化、回転軸変動とその問題点に関して詳細な解説をされ、一方長島会員は太陽活動と太陽磁気圏内の宇宙線変化の相互関係を、幾つかの簡単なモデルによる予測と観測結果の比較から、原因となる物理過程を見事に引き出されました。

総会では地球電磁気専攻大学院学生の就職という深刻な問題提起がなされましたが、続いて行なわれた懇親会に多数の会員が参加して此の問題についてお

互いの理解を深め得たことは有意義なことでした。

学会委員長の選挙について

次の要領で学会委員長の改選を致します。締切期日までに同封投票用紙を用いて御投票下さい。

1. 被選挙人 本学会正会員とする。但し規約第13条により
現委員長
禰 島 直 氏
を除く。
2. 選挙人 本学会正会員
3. 投票方法 単記無記名
4. 投票期日 昭和47年12月25日(月)締切
5. 投票送り先 東京都文京区弥生2-11-16(〒113)
東京大学理学部地球物理学教室内
日本地球電気磁気学会

学会役員改選について

今期学会委員長，評議員，運営委員の任期は采年3月迄となっておりますので，次期役員選挙は次の日程で行なわれる予定です。

- 11月 下旬： 委員長選挙投票用紙配布
- 12月25日： 委員長選挙投票締切
- 1月 下旬： 評議員，運営委員選挙投票用紙配布
- 2月 ： 新役員決定
- 3月 ： 新旧役員引き継ぎ

新入会員紹介

今回の総会で下記5名の入会が報告されました。

- 岡野 純(阪大教養) 同位元素地質
高島 正樹(阪市大物理) 流体物理
陶山 淳治(地質調査所) 物理探査, 測地
杉浦 直治(東大・理) 隕石, 月の物性
一ノ瀬 琢美(同志社大工) 電離層

国際会議, シンポジウム紹介(永田会員)

- 1972年8月 URSI General Assembly(Warsaw)
9月 IUGS GDP Project(Ottawa)
9月 ICSU STP Cooperation(Helsinki)
9月 Workshop on Electromagnetic Induction within
the Earth(Edinburgh)
1973年5月 COSPAR General Assembly (West Germany)
9月 The Second General Scientific Assembly of
IAGA(Kyoto)

就職問題

総会報告の中の会員報告事項についてこの資料を紹介させて頂きます。

地球電磁気若手の会説明資料

地球電磁気学の発展とともに, 日本地球電磁気学会会員となっている大学院生は年々増加しており同時に大学院生の研究活動も高まっています。しかしながら大学院修了後の就職状況は近年悪化の一途をたどり, 現在非常に深刻な事

態に至っております。研究者としてもっとも活躍できる年代にあり、研究意欲に燃えていながらその実力を十分に生かすポストがないために、オーバードクターという不安定な状態に追いやられている者が増え続けていることは、本人にとっても不幸であるばかりでなく、学会全体にとっても大きなマイナスであると言わねばなりません。

このような現状をなんとか打開するために、学会の評議員、運営委員あてにオーバードクター問題の現状認識やこれからの見通しについての意見を聞くために“要望書”を出し、多くの方々から貴重な御意見をうかがうことができました。

若手の会と致しましては、大学・研究所間の人事交流を盛んにする一方新しいポストの開拓等を積極的に関係機関に働きかけることが現在の就職問題の解決策として必要であると考えます。

私達は今後、会員の方々の御協力を得てオーバードクターの就職問題を解決して行きたいと思っております。

参考資料（地球電磁気超高層専攻大学院院生数）

	オーバードクター数	博士課程3年在学者数	全院生
東北大	1	1	7
東大	4	3	18
京大	2	1	13
九大	0	0	7

備考：オーバードクターと博士課程3年在学の人達の氏名及び研究歴を若手の会で作製してあります。適当なポストがありましたら御連絡下さい。

連絡先： 〒113 東京都文京区弥生2-11-16

東大地球物理学教室気付

地球電磁気学若手の会

お知らせ

- 1973年春期学会は次の日程で開催される予定です。

開催地：調布市小島町 電気通信大学

日 程：昭和48年4月28日(土)～5月1日(火)

- 宇宙航空研究所主催シンポジウム
電磁体流体力学シンポジウム 昭和48年2月1～2日
科学衛星将来計画シンポジウム 昭和48年3月15日～16日(予定)

- 今回小島 稔会員は次の研究に対して山路自然科学助成金を交付されました。

^{39}Ar - ^{40}Ar 法による海洋底地の年代測定

- 学術会議第62回総会報告資料が学会事務所に届いて居りますので御関心のある方はお問い合わせ下さい。